### 平成30年度 学校評価シート

めざす学校像

生徒が輝く学校、地域とともにある学校、教師が夢を語れる学校の3つの基本姿勢の 育てたい生徒像|もと、生徒・保護者・地域・教職員にとって魅力ある工業高校を目指す。

- **|本年度の重点目標**| 1 生徒同士が学び合う能動的な学びの場となる授業づくりに取り組む。
- (学校の課題に即 し、精選した上で、具体的かつ 明確に記入する)
- 2 生徒との共感的理解を大切にし、望ましい生活態度、規範意識の育成に努める。
- 3 企業訪問やインターンシップを強化し、地域の企業や職業について理解を深める。
- 4 工業の専門性を生かした資格取得や地域貢献活動を推進する。

# 中期的な

目標

- 学校名:和歌山工業高等学校(全日制) 学校長名: 田村 光 穂
  - ○規律の中から生まれる自立心を基盤として、確かな学力の定着を図るととも に、ものづくりに関する創造性を伸ばし、自ら学び続ける力を育成する。 ○キャリア教育の充実に取り組み、希望進路実現のため、生徒に主体的に進
    - 路選択できる能力を育てる。 ○コミュニティスクールとして、地域連携や地域貢献を軸に、地域ととも にある学校づくりの具体化に取り組む。

# 学校評価の 結果と改善 方策の公表 の方法

自己評価及び学校関係者評価の結果を、ホームページに掲載することで、 |保護者をはじめ広く公表していく。

		十分に達成した。
達	A	(80%以上)
成	В	概ね達成した。 (60%以上)
度	С	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。 (40%未満)

(注) 1 重点目標は3~4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

			自己	. 評 価			
		年 度 評 価 (3月31日 現在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	授業への参加や取り組み 姿勢について消極的なる。 徒がや多く見られる活動 また、校業果について表現する機会が少ない。	生徒が主体的に主体的に主機が主体的にこれでの取りるがのでありるが、 かれているか。	上往が発表や議論を行う授業	   課題研究の発表会を任 10	加したため、稼働率は低くなっているが、多くの授業で教室が稼働している。(36.4%)	В	○研究授業を強制的に実施し、授業改善に努めなければならない。 →管理職やミドルリーダーによる、第2
			アクティブラーニングを取り 入れた授業を展開する。	 			ない。 一管理職やミドルリーラット 一による善を強化したが、 全を活用した授業をは、 一の授業の際に提案である。 一の一方では、 本のでは、 本のでは、 本のでは、 本のでは、 本のでは、 本のでは、 ををがいまする。 といっでは、 本のでは、 をは、 をいった。 をいった。 をいった。 をいった。 をいった。 をいった。 をいった。 をいった。 をいった。 をいった。 をいった。 をいった。 をいった。 のい。 のい。 のい。 のい。 のい。 のい。 のい。 のい
	問題行動の発生件数など は減少しているものなど 服装のして見られる。 また、携帯電話の使用マ	全職員が共通理解と が上での が上で を なり り に り い い い い い い い れ い い い い い い い い い い い	通学時のマナー改善や遅刻防止・身だしなみ指導を徹底するために、街頭での指導を実施する。	街頭指導を月2回程度実施 する。	○一年間を通じ、定期的に街頭指導を行った。(2回/月) ○服装頭髪検査を一学期1回、二・三学期に各2回行った。(5回/年)		○問題行動は減少しているが、依然として服装等に乱れが見られる。 一定期的な検査以外にも、日常的な指導を徹底する。
2	ナーについても引き続き 周知させる必要がある。	~ 0	適時、服装頭髪検査など身だしなみやマナーを改善させる 取り組みを行う。	 	○マナー講演会を美施した。  また、LHR などを利用し、ネ   ットトラブルについての指導   を行った  依然としてネット	A	日常的な指導を徹底する。 ○ SNS などが身近になっているため、依然としてネットパトロールの指摘が多い。。 →マナー講習や LHR であ
				<del> </del>	(77 四/年)		指導四級を増やし、イット利用の意識を高める。 
	インターンシップが就職 先企業進路選択をスムる。 ただ、 ただ、 はい ない生徒がかる。 ないた、 はないまないまないまない。 また、 はないまないまない。 また、 はないまないまない。 また、 はないまないまない。	生徒の勤労観を高め、就職一次試験合格率を向上させ	工場見学や現場見学を通じ、 勤労観を高める。	見学会を各クラス1回以上 行う。	○多くのクラスで見学会を実施している。(18 クラス/30 クラス実施) ○校友会企業を中心とした企業を生活の		○各クラスとも特別授業や見学会などを実施しており、おおむね満足のいく結果をとな
3	ズに行えない生徒がいる。 また、進路意識が希薄な 生徒もおり、就職に対す る意識を早い段階で強く	から がいる がいる がいる がいる がいる がいる がいる がいる	インターンシップが進路選択につながる取り組みとする。	インターンシップ時の産業 系企業の選択割合を 50 % 以上とする。	○校友会企業を中心とした企業を生徒に斡旋したため、産業系企業の選択率は増加している。(243名/372名=65.3%)	A	っている。 → 軍に多くの機会を与う
	する必要がある。	912 ng 17	就職一次試験合格率を向上させる。	就職一次試験合格率を 85 % 以上とする(昨年度 85.7%)。	業を全性に特別してため、屋 業系企業の選択率は増加している。(243名/372名=65.3%) ○就職試験対策を厳しく実施しているため、合格率は高い 状態である。(88.8%)		らした。 このでは、 このでは、 このでは、 このでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのできるででのが、 でのできるででいる。 でのでは、 でのできるででいる。 でのに、 でのできるででいる。 でいると、 でい
	専門的技能の習得に効果 のある資格取得や工業の 専門性を生かした地域貢 献活動に取り組み、工業	専門性を 高高さった いか とこれない を もイスない を を こったない は を とこの は を こった と こった と に るった と た るった と た るった と た るった るった るった るった るった るった るった るった るった る	資格取得試験の合格率を向上させる。	資格試験の延べ合格者数を 180 名、合格率を 40%とす る(昨年度 172 名・36.4%)。	○資格取得を推進し、ジュニアマイスター受賞人数が大幅に増加した。 (資格取得:376 名/690 名 =		○ジュニアマイスター受賞を 目指し、資格取得のため今ば 割などを多く行った。 資格取得の機会を多く提供す
4	高校としての強みを発信していく必要がある。	能を生かした地位 貢献活動に積極 的に取り組む。	数を増加させる。	ンュニアマイスター受負人  数を5名以上とする(昨年  度5名)。	54.0%合格)   (ジュニアマイスター 26 名受   賞 特 1·G7·S8·B10)	A	質などを多く行った。 今後会を多く行った。 今後代表を多く提供 るの機会を多く提供 るの世曜センター事業を活用した。 一世前授業の依頼が数校やした。 では、一世域との連携を深める必要がある。
			小学校等への出前授業を積極 的に行う。	出前授業を年間3回程度実  施する。 	○出前授業を実施した。(小学 校3回)		地域との連携を深める必要がある。

# 学 校 関 係 者 評 価

# 平成31年2月15日 実施

# 学校関係者からの意見・要望・評価等

〈生徒評価〉A・B 評価の合計が昨年度の76.2%から 68.4%へと減少している。昨年度と調査項目を変更している部分もあるため、直接比較する事とできないが、特に ICT や利用した行く機会といというと対した行く機会がかため、こうな機会をでしたいり組織にいる。 こうな機会をあるよう改善する必要がある。

- 〈保護者の意見〉 ・資格を取得して、 ・資格を取得しいいの授業・発 を徹底ではないいれるでは、 をではないいれるでは、 をではながいれるです。 をではながれるです。 をではながれるです。 ででいるでは、 ででののではないでは、 ででいるはいかりではないが、 ででいるが、 でいるが、 でいるが、 でいかが、 でいいが、 でいが、 でいいが、 でいが、 でいがが、 でいが、 でいが、 でいが、 でいが、 でいが、 でいが、 でいがが、 でいが、 でいがが、 でいがが、 でいがが、 でいがが、 でい
- 〈学校運営協議会委員の意見〉 ・携帯電話を授業中に使い、ゲーム等をしている生徒がよく見かけられ、残念に思いました。見つけたら没収(その時間だけ)するとか、良い方法があれば。 ・①接遇教育の充実、②確かな学力・技能の向上、③地域連携・地域貢献の促進について3つの部会を設けてほしい

評価。	生徒(前年度)。	保護者(前年度)。			
A	35.0% (44%)	26.4% (29%)			
В	33.4% (32%)	43.0% (46%)			
C .	23.6% (17%)	27.9% (22%)			
D .	5.7% (4%)	2.1% (3%)			
E	2.4% (2%)	0.6% (0%)			